

学生会

その時々最善を

医学部医学科 坪田 大輝 (東京学芸大学附属高等学校出身)

昭和大学1年生全員が生活する富士吉田キャンパスには、寮生活を快適に行うことを目的とし、学生と大学側の橋渡しの役割を果たす中央委員会という組織があります。私は、入学時に中央委員長に任命されてから退寮までの約8か月間、この役割を務めました。正直に言って思い通りにいかないことが多かった。というのも、コロナ禍であったため私たちの行動の多くに制限が入り、学生たちの希望どおりの寮生活ができず、ときには寮生活をやめた方がよいのではないかという意見すら学生たちから聞こえてくるようなこともあったからです。

ただ、嘆いていても状況は変わりません。「少しでも充実した寮生活を送るにはどうしたらよいか」と、目まぐるしく変わっていく状況に合わせて考えていきました。少し具体的に述べると、室長会などを通して学生の意見を集約し、大学側に伝え、両者の意見の合意点を探するという作業を繰り返して行いました。結果として寮生活が学生の皆さんにとって良い方向に変わったのか、はたまた悪い方向に変わってしまったのか、ほんとうのところはわかりません。しかし、この寮生活で経験した、その時々最善の行動を考え、実行するということが、より大きな困難を乗り越えるうえで役立つと確信しています。



寮生活

ここでしか得られない学び

歯学部歯学科 末木 佐和子 (駿台甲府高等学校出身)

初めて会う人と同じ部屋で8ヶ月間を過ごす。私はこの生活を乗り切ることができたのだろうか。入寮するその日まで大きな不安を抱いていました。しかし、実際に部屋やコンパの仲間と過ごした日々は毎日が修学旅行のように充実していました。

寮生活では寮祭やウィンターパーティー、コンパで行うBBQや花火など様々な楽しみがあります。そのどれもが学生主導で進められるため、多くの人と知り合うことや物事をやり遂げる達成感を味わうことができます。

生活面でも勉強面でも不安や疑問があれば相談できる友人がいつでも近くにいる。このような環境にいられることは滅多にありません。また、頑張っている仲間の姿がとても近くにあったことは、自分自身のモチベーションを高めてくれました。もちろん多くの人が集まっているため、全員が常に楽しく過ごせたというわけではないかもしれません。しかし、多様な価値観に触れたということは大きな経験であり、ここでしか学ぶことができないものだと感じています。大きな不安を抱いて入寮した私ですが、退寮する際には想像もしていなかったほど多くの学びを得ることができていました。



寮生活

寮生活のすゝめ

医学部医学科 奥田 皓太 (桐蔭学園高等学校出身)

東京から車で約2時間。富士急ハイランド横の高速道路を河口湖インターで降りて少し坂を登ると、生い茂った森と広大なグラウンドが目に入ります。これが昭和大学富士吉田校舎です。昭和大学の一年生は皆、この森に囲まれた校舎で寮生活を送ります。

私が寮生活を通して学んだことは自分の頭できちんと物事を考えることの大切さです。寮ではいろいろな学部、学科、年齢の人がいて、それぞれ異なる価値観を持った人と一緒に生活をしなければなりません。そのため自分が何をすべきで、何をすべきでないのか、自分の言動が他の人にどのような影響を与えるのかきちんと考えて生活する必要があります。

また寮では勉強と並行してサークル活動や寮祭、ウィンターパーティーなど様々なイベントが行われます。高校と比べて、自分で自由に使える時間が増えた分、生活面でも時間の使い方や優先順位を考えることが求められます。こういったイベントに思い切って積極的に参加することで、たれでも自分の新たな一面に気づいたり、何かに打ち込むことができたりします。

これからも昭和大学で一年次の寮生活が行われている意義をしっかりと自分の頭で考え続け、寮で得られた経験をこれからの大学生活やその後の人生で活かしていきたいと思えます。



サークル

仲間とともに過ごした忘れられない一年間

薬学部薬学科 原田 和佳 (徳島文理高等学校出身)

初めは不安でいっぱいであった富士吉田での寮生活ですが、同じ志を持った仲間と生活をすることでその不安はなくなり、相手のことを考えて協力し合い、日々成長できる素晴らしい環境になりました。特にそれを感じたのは、サークルでの活動です。

私は剣道サークルに所属していました。サークル活動は週に3回で、1回2時間程度、活動内容はその日集まったメンバーで決めていました。どうやったらうまくいけるのか、練習の合間に話し合い、意見を出し合っ、少ない練習時間の中で効率よく上達するように心がけました。剣道初心者のメンバーにも理解してもらおうとうまく言語化して伝える工夫をしていました。自分が当たり前のように感覚的にしていることを相手に言語化して伝えることは非常に苦労しましたが、そうすることで自分自身も初心に帰ることができ、新たな発見をするだけでなく、相手のことを思いやる気持ちを身につけることができました。

お互いに協力して意見を出し合い、計画を立てて実行し、またそれを試行錯誤し、より良いものにする。これは富士吉田での共同生活を通して培われた能力であると思えます。この富士吉田での共同生活で経験、学習したことは一生忘れません。



「証」としてのウィンターパーティー

医学部医学科 堀江 麻理乃 (浦和明の星女子高等学校出身)

令和4年度ウィンターパーティー実行委員長を務めました。堀江麻理乃と申します。まず、ウィンターパーティー開催に際してご尽力くださった大学関係者の皆様や業者の皆様、そして準備期間から行事当日までご協力くださった同級生の皆さんに深く感謝申し上げます。

本行事開催にあたり、コロナ禍ならではの課題が多くありました。実行委員会は、当日の人数制限やステージのライブ配信等、具体的な感染症対策を企画案に組み込むことで開催の方法を模索し続けました。その結果、多くの「制限」を伴った開催形態となったものの、寮生活を締めくくりにふさわしい行事を開催することができました。本行事における「制限」が、学生の活動の幅を狭めることもありました。しかし私はその「制限」こそが、コロナ禍においても、私たち学生が諦めずに充実した寮生活を模索した証であると考えます。感染症の流行期に、試行錯誤を重ねて開催した本行事は、医療人を志す私たちにとって貴重な学びの場であったと考えます。

本行事は学びの場であったと同時に、富士吉田での寮生活の集大成でもありました。寮生活のゴールが鮮明になり始める頃、私たちは寂しさを覚えながら寮生活最後の行事を創りあげました。本行事が同級生の皆さんの心に残る思い出となれば、実行委員長を務めた者としてこの上なく喜ばしいかぎりです。



ウィンターパーティー



自然教育園

ようこそ富士吉田自然教育園へ

学生教育環境整備室 根本 双葉

富士吉田校舎には、自然あふれる「自然教育園」という施設があります。園内にはコンパでバーベキューやピザづくりを楽しむエリア、ハーブや野菜を栽培するエリア、林内の散策や芝生に寝転ぶことのできるエリアがあり、利用時間内であればいつでも利用することができます。

また植物観察会や野菜の収穫体験、ジャックオランタンづくりや焼き芋づくりなど年間を通して自然と触れ合うイベントを企画実施しています。上級生の中にはこのイベントをきっかけに「一生モノの友人」に出会えた方もいるようです。学部・学科・寮の部屋という枠を超えた新しい出会いができるのも自然教育園の魅力の一つです。

寮生活に不安を抱えている学生も多いかもしれませんが、友達と一緒にいたい人もいれば一人になりたい人もいます。園の使い方は人それぞれです。園内で散歩をしたり、ベンチで読書をしたり、芝生で楽器を奏でたりと皆さん思い思いの過ごし方をされています。自然教育園ではふらっと立ち寄りたくなる居心地の良い環境を目指して整備をしています。ここでしかできない思い出を是非たくさん作ってください。



全力で作上げた感動のステージ

歯学部歯学科 池田 萌夢 (桐蔭学園中等教育学校出身)

私はイベント部門のチーフとしてウィンターパーティーの舞台運営を担当しました。部門としての活動が始まる前の段階から業者との連絡や企画書類・スケジュールの作成等を行いました。一人で進めていく作業は効率が良い反面、行き詰まることもあり、実行委員長や部門長、寮生活の中でできた仲間達と協力して、時間がない中でできる限りの速さで準備を進めて行きました。

ステージに出演する団体が決まってくる一方、コロナウイルスの影響で練習ができな日々が続く、本当に予定通りに参加してもらえるのだろうかという不安が募り、大学と相談して練習場所を開放してもらったこともありました。ステージに関しても本番直前まで配置や観客の鑑賞方法等について検討を重ねました。

そして迎えたステージ本番は、サークルや有志の団体によるダンスやバンド演奏を中心に、楽器演奏や演劇、漫才など多岐にわたり、出演者の想いが伝わる感動的なステージとなりました。会場一杯に観客を入れての開催ができなかったことがたいへんに残念ではありましたが、出演者たちの精一杯のパフォーマンスは、会場やライブ配信で見てくれた皆さんの記憶に深く刻み込まれたと思います。

最後にウィンターパーティーの開催のために尽力してくださった先生方と事務課の方々、多くの協力をしてくれた寮生全員に感謝の意を述べさせていただきます。ありがとうございました。



白樺舎

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第44号 2023.4.10発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403

新入生の皆さんを歓迎いたします

学校法人昭和大学 理事長 小口 勝司



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。この富士吉田校舎での全寮制教育は医系総合大学である本学における特色であり、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部の4学部の学生が共同して衣食住をとまします。共同生活を送ることで相手を思いやる心を育み、学部間交流を積極的に行い、意見交換の場としていただきたいと思えます。将来を担う人間性豊かな医療人となることを念頭に切磋琢磨する皆さんの努力は必ず実を結び、自身の糧となります。この寮生活の経験がチーム医療の根底を学ぶよい機会となることを心より期待しております。

本学は創立者である上條秀介博士が掲げた「至誠一貫」の建学の精神のもと、社会に貢献する優れた医療人を育成してまいりました。昭和39年昭和大学富士吉田校舎を竣工して以来、この地に根づく平成27年には富士吉田市と地域の課題解決および活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的とした「包括的連携協力に関する協定」を締結し友好的な関係を築いております。また、本年は富士吉田キャンパス再整備計画に基づき、本年夏に新寮が竣工予定です。昭和大学は常に学生が幅広い視野を養い、医療人に成長していく歩みをサポートしています。

本法人は盤石な財政基盤のもと、常に最新の設備で最高の教育を提供して参ります。ご父母の皆様におかれましても、ご理解協力をお願いし、共にお子様が医療人として大きく成長していく姿を見守っていただきたいと存じます。最後になりましたが、富士吉田校舎の教職員、皆さんのご家族ならびに関係の皆様のご協力ののもとに富士吉田校舎における新生活がスタートできますことを感謝申しあげてご挨拶とさせていただきます。

医療人への基礎作りの場：富士吉田キャンパス

昭和大学 学長 久光 正



昭和大学1年生の皆さん、富士吉田キャンパスにようこそ。皆さんは将来、医療に携わることで社会に貢献することをめざし、本学に入学しました。本学の特徴は医療人になる基礎作りを富士吉田で1年間の学部混合全寮生活を通して行うことです。医療は「ひと」に施すものです。それぞれの患者さんは異なる歴史、生活、習慣により築き上げた異なる人生を歩んでいます。これらの人々に対応するには皆さんがしっかりと医療人マインドをもたなくてはなりません。挨拶、礼儀、作法、思いやり、順法精神、対話力などの上に医療の知識や技術を積み上げていくのです。これらを身につけたうえで、各職種が協力してチームワーク(チーム医療)を実践していくのです。

昭和46年、私も富士吉田で1年間を過ごしました。当時は医学部と薬学部の2学部でした。チームは8人部屋で両学部4名ずつ、2段ベッド4つの寝室と8つの机がある勉強部屋で寝食を共にしました。その時の1年間で私たちは精神的に大きく成長しました。そのきっかけは、友人たちとの対話でした。政治・恋愛・趣味、いろいろな話題について、深夜まで語り合ったことを覚えています。皆さんも、友人と大いに議論して心を鍛えてください。

Team Workについてこのような言葉があります。
Coming together is a beginning.
Keeping together is a progress.
Working together is a success.

富士吉田の1年は皆さんの医療人としての人生の貴重な第一歩です。SUCCESSに向かって、大いに羽ばたいてください。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をどけて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでいくことへの願いが込められています。

「春爛漫」富士吉田教育部 准教授 前田昌子 撮影

医学部

医療人として人の心に向き合う

医学部医学科 小方 美智子 (学習院女子高等学校出身)

富士吉田で学ぶ1年間は、医療者の基盤となる能力や心構えを身につける充実した時間です。どの学部も基礎・教養科目から専門科目まで幅広く学習しますが、特にPBLや初年次体験実習といった学部連携授業を通して、チーム医療を実践するための土台となるコミュニケーション能力や主体性等の向上を実感することができます。しかしそれ以上に、倫理を深く考え人間性を涵養できることは、富士吉田キャンパスにおける教育の大きな魅力だと私は感じています。

例えば「ヒューマニティ」という全学部必修の講義科目では、差別、終末期医療、人体実験といった問題を扱い、過去の様々な事例を学ぶことで、生命に対する姿勢や医療の在り方を考えます。特にその中で作家・北條民雄の小説を題材とするハンセン病に関する授業では、何度も心を打たれました。ハンセン病が社会から偏見と差別の目を向けられる中、患者の方たちはどのように過ごし、苦しんできたのか。授業を通してそれらを知り考えることは、ハンセン病だけでなく、すべての病者の思いを深く理解しようとすることに繋がるといえます。

人の心に向き合うことは、決して簡単なことではありません。しかし富士吉田での学びは、患者さんの心に向き合い寄り添える医療人としての重要な第一歩になると確信しています。



薬学部

富士吉田での学修スタイル

薬学部薬学科 瀬口 俊 (東京都立小金井北高等学校出身)

一年間の寮生活を通して薬学部の授業は、基本的には中学校・高等学校の授業形態と変わりませんが、内容の量や濃さは比べ物になりません。また、富士吉田での寮生活を通じ、授業・演習に関してよかったと思うことが二つあります。

一つ目は、授業や演習についてわからなかった部分や気になったことがあれば、すぐに友達や先生に聞けることです。日常生活で部屋メン(同室の学生)だけではなくフロアメン(同じフロアの学生)やサークルのメンバーなど常に同級生が近くで共に生活しているため、先生に質問するよりも軽い気持ちで友達に尋ねることができ、またメールでのやりとりとなる場合もありますが、私たちが生活している場所と先生方のいらっしゃる研究棟(3号館)が近いこと、また、指導担任の先生が私たちの授業を担当している場合もあつることなどから、直接先生に尋ねるハードルが低いため、自分の持つ疑問点をより早く解決することができます。

二つ目は、大学附属の施設である自然教育園や医薬資源園での学修ができることです。薬学部では初年次に漢方の授業や生薬演習があります。教科書に記載されている内容を自分の五感をフルに活用して確認し学ぶことで、知識としてより定着しやすくなると思います。

初めての環境で分からないこともたくさんあると思いますが、周りに頼れる仲間が同じくらいたくさんいることを忘れずに頑張ってください。



歯学部

コロナ禍前の大学生活へ

歯学部歯学科 青木 一真 (静岡県立静岡高等学校出身)

入学当初、世間では未だにコロナ禍に関連する話題が絶えなかったため、大学における講義形態がどうなるのか、そもそも入寮することはできるのか、といった不安が生じていました。

しかし、昨年12月に寮生活を終え、いま富士吉田での生活を振り返ってみると、私が先輩たちから聞いたコロナ禍での大学生活より、あの約8カ月間は、コロナ前の大学生活に近づいていると感じました。娯楽施設へは行けない、外食は避けなければならない、大学生として辛い制約はありましたが、感染対策が講じられたうえで入寮が許可され、講義は基本的に対面で行われたうえ、遠隔では行えない演習も履修することができました。入寮することさえもなかなかできずに苦慮された先輩たちがいることを考えると、これはとても恵まれたことでした。

昭和大学では、感染リスクを常に背負いながら、先生方や学生だけではなく様々な方の協力のもと、自ら学びに来る場である大学として求められるコロナ禍での講義形態が、着実に改善されてきていてと考えます。今後、寮生活全般において制約が緩和されていき、富士吉田でより密度の濃い時間を過ごせるようになっていくことを願っています。

保健医療学部

富士吉田でしかできない学び

保健医療学部看護学科 矢野 愛菜 (神奈川県立市ヶ尾高等学校出身)

新型コロナウイルスの感染拡大により、全国各地の大学で遠隔での授業が主流となりつつある中、対面形式を主流とし、多くの人と交わりながら行う富士吉田での講義および演習は、「この大学でよかった」と、そう強く感じさせてくれるものでした。

正直に言うと、入学当初は、オンデマンド授業のほうが自分のペースで学習を進めることができるため、可能な限り対面での授業を行おうとすることに対して疑問を抱いていました。しかし実際に授業を受けてみると、一方的に教員の話や受け身の授業ではなく、周囲の人とコミュニケーションをとりながら自発的に学ぶ形式の授業が多く、与えられるものを吸収していくだけのものではありませんでした。仲間とともに問題解決を目指したり、疑問が生じるたびに学生たちで吟味してみたりと、その「リアル感」こそが対面形式の授業の魅力だと感じました。

そして何より一年間での学びを通じ、自分にとってそれぞれで単なるスローガンでしかなかった「チーム医療」というものの本質、重要性を実感することができたと思います。他学部とともに学ぶことは想像以上に意味のあるものであり、多角的に物事を捉えるというチーム医療においても大変重要になると思われることを身につけることのできる最高の機会であると痛感しました。



病院見学実習

実際の現場だからこその学び

医学部医学科 古畑 萌奈美 (東京農業大学第一高等学校出身)

「チーム医療」という言葉は今では誰もが知っている言葉だと思います。しかしそのチーム医療が、どのような職種で構成される各々がどんな役割を担うことで成り立っているのか、それをきちんと理解できている人は少ないと思います。その理解を確実にできたのが病院実習であると私は思います。

私は病院実習で旗の台の昭和大学病院に行きました。ここでは1日の間に病院内の様々な部署に赴き、職員の方々が実際に働いている様子を見学したり、直接お話を伺ったりしました。実習の一環として、実際に手術を行なっているスタッフの様子を、手術室の外から小窓を通して少しですが確認することもできました。

私たちの班は外来や薬剤部をはじめとする合計14の部署を見学しましたが、その中には臨床工芸学や物品管理など、実習前にはよく知らなかった部署も含まれていました。しかしそれらの部署が病院内でどのような役割を担っているのかを実際に見聞きしたことで、その職種がチーム医療の不可欠な構成員であると理解することができました。様々な職種が連携し一人の患者さんを救う、その成り立ちを直に学ぶことができたのは、病院実習だからこそ貴重な経験であったと思います。



学部実習

リハビリテーションにおけるコミュニケーションの大切さ

保健医療学部理学療法学科 西野 仰 (広島三育学院高等学校出身)

学部実習は、学部ごとに内容が異なり、それぞれの専門に沿った実習を行います。理学療法学科では、病院実習と保健医療学部3学科共同のプログラムが実施されました。病院実習では、4つの大学附属病院でリハビリテーションの現場を見学しました。

この実習を通して、私は患者様とのコミュニケーションの重要性を実感しました。多くの理学療法士はリハビリテーションを行う際に、患者様と趣味などの、一見治療には関係しないような内容も交えながら楽しく会話なさっていました。その様子から、患者様との会話が緊張感を緩和することへ繋がり、信頼関係を築くうえで必要なのだと感じました。

また、このような会話から得られる情報が、治療計画を立てるうえでの情報源になることを知りました。教室での座学だけでは、どうしても知識や技術を重視してしまい、コミュニケーションの重要性を理解できていませんでした。しかし、実際の現場を見学することで初めて、医療従事者という立場で考えることができるようになり、患者様に寄り添い、信頼関係を築くことが、どれだけ医療において重要であるかを理解することができました。最終日には、3学科共同で互いの体験を共有し、理解を深める時間が持たれました。医療人としての自覚を持つことができた有意義な実習であったと感じています。



学部実習

将来への第一歩

歯学部歯学科 寶田 鈴子 (カリタス女子高等学校出身)

富士山が雪化粧姿となった頃、今年度の初年次体験実習が行われました。私は歯学部の実習で昭和大学歯科病院にて口腔リハビリテーション科、顎顔面口腔外科、インプラント歯科を見学させていただきました。初めて見るものや知ることが多く、夢のような時間でした。特に、診察を見学した際、問診中に共通の話題や雑談を挟むなど、患者さんが緊張しないように心掛けていたのが印象的で、コミュニケーションの大切さを実感しました。

また、先生方は知識の面で未熟な私たちに丁寧に対応してくださり、質問にも優しく答えていただき、歯学への関心が高まりました。普段富士吉田で授業を受けている私たちが、実際の診察を見たり、日々の授業で学んだ知識を活用する機会が多くなるため、貴重な経験であり、将来の歯科医師像を考えるうえで大きな糧となりました。

実習を経験した後に受ける授業は、歯科医師の役割など具体的なイメージを得たことで、今まで以上に理解を深めることができるようになりました。改めてこの実習が非常に有意義なものであったと感じています。

最後に、この実習に関わったすべての先生方にお礼申し上げます。



BLS講習

救える命

薬学部薬学科 岡田 真歩 (静岡県立静岡高等学校出身)

10月に実施される初年次体験実習のひとつとして、BLSの実習を行いました。BLS(Basic Life Support)とは、心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置のことです。心肺停止から心肺蘇生を少しでも早く行うことで、救命率が大きく上がります。少しでも多くの人が一次救命処置についての正しい知識を身につけ、方法を学ぶことで、より多くの命を救うことができます。

いざ体験してみると、胸骨圧迫には想像以上に強い力が必要なこと、一定のリズムで圧迫することが難しいこと、人工呼吸の準備には意外と時間がかかることなど、戸惑うことが多くありました。しかし、医療者を目指すものとして、責任を持ち、真剣にこの実習に取り組むことができました。

家で、学校で、街中で、もしもの場面に遭遇したとき、「薬学部の学生です」というと、まだ学生とか少し頼りなく思われてしまうかもしれませんが、この体験を胸に、自分にも救える命があるのだと、行動に移すことができるようにしたいと強く感じました。



学部連携 「健康とスポーツの科学」アイススケート仲間と高め合えるのもスケートの魅力

保健医療学部作業療法学科 鏡水 優希 (仙台市立仙台青陵中等教育学校出身)

年末12月の完全退寮後、4日間にわたって富士吉田キャンパスに残り、体育の選択授業であるスケートの集中授業を受けました。富士急ハイランド内のスケートリンクに元日本代表の監督や選手の方などをお招きして教えていただくという大変恵まれた環境でスケートを学ぶことができました。最初は授業についていけない不安でしたが、全員基礎から丁寧に指導してくださったため、何の不安もなく練習に取り組むことができました。

期間中、午前と午後に3~4時間ずつスケートリンクで実技を学び、夕食後はキャンパスで1時間ほど座学を通してスケートに関する知識を深めます。その間、私は同じフロアの友人ら3人と共に行動していました。実技練習の際は自分で気付いたコツを教え合ったり、滑っているフォームを動画で撮ったりタイムを計測し合ったり、また、最終日に控えているスケートの知識を問うテストに向けて問題を出し合うなど、互いに切磋琢磨しながら技術や知識の向上を目指しました。

その結果、最初は氷上で歩くのもやっとだった私が、4日目の最終日にはスケートリンクを転ばずに一周滑れるまでに成長したのです。また、スケートに関する基礎知識も学ぶことができたことに加え、元日本代表の監督の講演会を拜聴する機会もあり、大変に有意義でした。寮生活の最後に、友人らと高め合って成長できたこの集中授業は4日間という短いものではありましたが、一生の思い出になったと思います。

アイススケート

総務部 獅子内 美帆

「健康とスポーツの科学」の集中講義として、富士急ハイランドスケートリンクにて12月22日から4日間のスケート実習が開講されました。

昭和大学の職員である、女子アイスホッケー日本代表監督の飯塚祐司氏と昭和大学女子アイスホッケークラブ「ブルーウィンズ」の選手7名で講師を務めさせていただきました。

40名の受講生のほとんどがスケート未経験・初心者のため、基本的なスケートの滑り方や止まり方を中心にゲームを交えながら進めていきました。転んでも最後まで諦めずに取り組み、短い期間の中で多くのことを吸収しようとする学生の皆さんの姿に感銘、スケートの履き方もままならなかった学生が日に日に上達していくその成長の速さに、講師として大変刺激を受けました。

講師陣も、どのタイミングで何を伝えていくか個々の習得状況を共有しながらチームワークを取り組みました。

教える側として「伝え方」を学ぶ良い機会をいただき、最後まで諦めないことの大切さをあらためて学生の皆さんから教わりました。この実習を通して少しでもスケートに興味を持ってもらっていたら嬉しいです。美しい富士山を眺めながら、学生の皆さんとともに貴重な4日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

選択科目 「歴史遺産への招待」(京都)

歴史遺産から学んだ大切なもの

歯学部歯学科 隠明寺 宥歩 (仙台北百合学園高等学校出身)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この「歴史遺産への招待」という科目は京都で実施される1年生の選択科目です。もともと神社仏閣や歴史が好きだった私は迷わず選択しました。初日は京都橋大学のキャンパスで歴史遺産の意義について講義を受けました。その後、仏像・建造物・庭園の3つのコースに分かれて先生方とともに京都の史跡をまわり、最終日はひとりずつ学修成果を発表します。仏像コースであった私にとっては仏像のみならず、たくさんの遺産のすばらしさを肌で感じることができました。図書やインターネットを通じて見る歴史遺産はもちろん素晴らしいものです。しかし、実際にその場で参拝しながら観ると、その背景に人々が生きた歴史が感じられます。

旧き時代には疫病などが流行ると神社仏閣や仏像にすがったものですが、今は医療が発展しそのようなことは少なくなりました。時代が変わると変化していくものは数多ありますが、佇み続ける遺産は変わらずそこに在り、対話することができます。さらに仏像に向き合う際には自身の視点だけではなく仏像中心の思いをもつことも重要です。この学びは生活にも繋がると思います。4日間で様々な遺産や多くの先生方、受講生との一期一会がありました。それらは今でも私にとって鮮明に心に残る大切なものです。皆さんもきっと大切なものが見つかることでしょう。

